

医師の診療科偏在及び地域偏在に関する調査

1 研修先

- ・ イングランド（ロンドン市）
- ・ フランス（パリ市、モー市）

2 研修期間

- ・ 令和元年11月6日から令和元年11月10日（フランス）
- ・ 令和2年1月22日から令和2年1月26日（イングランド）

3 課題、目的

- ・ 平成30年度に国（医師需給分科会）において都道府県の診療科ごとの将来必要な医師数の議論が開始されており、千葉県を含め、全国的に医師の診療科偏在が指摘されている。
- ・ また、令和元年より導入された医師偏在指標による分類では、山武長生夷隅医療圏が医師少数区域、千葉医療圏及び安房医療圏が医師多数区域となり、千葉県内でも医師の地域偏在が明らかになっている。
- ・ そのため、本県での医師偏在対策及び医療提供体制を検討するにあたり、先進的な政策を行っているイングランドとフランスを視察し、政策や効果等について調査を行う。

健康福祉部医療整備課	副課長	末永	道生
	副主査	守安	沙織
	主事	舛澤	良弘
	主事	梅田	美咲
	主事	鈴木	直輝
病院局経営管理課	副主査	小林	弘二



4 主な調査結果

(1) イングランド（ロンドン市）

【イングランド保健教育機関、英国家庭医学会、国民健康保健サービスロンドン事務所を訪問】診療科別の専門研修の定員枠設定における効果、かかりつけ医を中心とした総合診療体制の構築、タスクシフティングについての話を聴取できた。



(2) フランス（パリ市、モー市）

【地方圏医療庁、パリ公立病院連合、メディカルセンター・モーを訪問】医師の偏在については、かかりつけ診療所への患者のアクセスのしやすさをマップ化する等して状況を把握の上、対策を行っていた。また、多機能診療所等の訪問により、医療過疎地域での医師確保の問題点や対策等の話を聴取できた。



5 考察

(1) 医師の診療科偏在及び地域偏在

英・仏では、総合診療医（かかりつけ医）の確保に力をいれ、かかりつけ診療所を中心とした医療提供体制構築を目指していると感じた。本調査を、本県の医師偏在対策・総合診療医の確保・かかりつけ診療所の役割分析に活かしていきたい。



(2) 医療過疎地域での医療提供体制

英・仏では、医師から他職種へのタスクシフティングが進み、また、多職種により運営される多機能診療所等を活用することで医師の柔軟な働き方が可能となり、医師の能力があまねく活用されていた。本県でも参考にできる点である。

